

2013 年度日本建築学会大会 in 北海道 開催！

Architectural Institute of Japan Annual Meeting 2013

text_koshimura

8月30日から9月1日にかけて、今年度の建築学会大会が北海道で開催されました。1万人に迫る登録参加者をほこる学術イベントの報告です！

8月30日（金）から9月1日（日）、北海道大学札幌キャンパスにて2013年度日本建築学会大会（北海道）が開催されました。奥尻島を津波が襲った北海道南西沖地震から20年の復興シンポジウムをはじめ、多くの研究協議会などが行われました。研究室からは現在のメンバーやOBOGが参加し、個人の研究成果やプロジェクト活動の成果を発表しました。

また、8月31日（土）には毎年恒例となっている研究室懇親会も行われました。今年は各大学にいらっしゃるOBOGの先生方の研究室の学生も含めて30人程度の参加がありました。互いに研究室でどのようなプロジェクトに関わっているか、どのような研究テーマに関心があるか、といった話題にもなって刺激的かつ楽しい会となりました。



▲懇親会後の一本締め

発表者一覧（敬称略）

日	発表者	題目
8/30	中島 伸	戦災復興区画整理事業の換地設計方針の特徴に関する研究
8/31	V ポンサン	タイ・バンコクの仏教寺院及び周辺地域の保全をめぐる紛争の構造
	神原 康介	東日本大震災時における岩手県大槌町赤浜地区住民の避難行動調査
	松井 大輔	「牛込華街許可地図面」に見られる花街の地区指定の特徴
9/1	黒瀬 武史	地域再生を意図した米国ブラウンフィールド政策の新たな展開
	川崎 泰之	鉄道沿線まちづくりに関する研究 遊園地の跡地利用計画について
	萩原 拓也	清水港日の出地区とその後背地域の戦後における変遷
	越村 高至	香取市佐原地区における人々の記憶に関する研究
	永瀬 節治	地域づくりの視点から見た史跡制度による集落保全の現状と展望 五箇山における歴史的環境の持続再生に関する研究 その1
	森 朋子	居住の視点から見た史跡制度下の合掌造り家屋（主屋）と付属屋の実体 五箇山における歴史的環境の持続再生に関する研究 その2
	江口 久美	パリにおける近隣住区評議会による都市保全に関する研究 3区、4区、11区、12区における動向

各賞の表彰式も開催

AIJ Awards Ceremony Was Held

大槌PJチーム有志が技術部門設計競技「次世代に継ぐ住宅の再建計画：東日本大震災からの復興」で佳作となったほか、昨年度修了の安東政晃さんが優秀修士論文賞を受賞しました。

優秀修士論文賞

「鬼怒川上流域における河岸町の空間構造とその変容に関する研究」
安東 政晃 さん



▲現地でお世話になった菊池夫妻と

この度、このような賞を頂き、大変嬉しく、また恐縮しております。自分なりに最後までやりきったという思いもありつつ、やはり多くの方の支えが無ければ（一応の）完成まで辿りつくことができなかったからです。お世話になった方々へ、本当に

ありがとうございました。人々が川から恵みを得る、川が人々の生活を脅かす、互いの領域を侵食しあうような両者の交わる空間をみるべく、鬼怒川と沿川の集落を研究対象にしましたが、研究していくうちに、川沿いの空間の変化は水道や道路といったインフラの近代化とも関係していることを知り、都市空間は本当に様々な要素が絡み合っていて感じます。建築雑誌でも「さらなる完成度を」と指摘されていましたが（笑）、この論文の続きについて菊池夫妻からも考えていきたいと思っています。

技術部門設計競技 佳作

「平衡の道筋」

text_segawa



▲表彰状を受け取る黒瀬助教

マガジン199号でもご紹介させていただいた通り、今回のコンペでは大槌PJチームの有志で取り組んだ提案「平衡の道筋」が佳作に選出されました。表彰式には黒瀬先生、M2 萩原、M1 瀬川、道喜が出席しました。表彰式当日は最優秀賞1

作品と優秀賞の2作品のチームが提案の概要を発表しました。他チームの提案の独自性だけでなく、それぞれ提案の対象敷地からみる被災地の課題の共通項を再度認識することができました。コンペ提出時は初めて大槌を訪問してから2ヶ月も経っておらず、模索しながらの取り組みでしたが、このコンペを経て吉里吉里集落についての理解が深まったと思います。今回の経験を今後のプロジェクトにしっかりと活かしていければと考えています。

"まち大コーナー第6弾!"

A Message from MPS Student vol.6!

まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う連載企画。第6弾は、大成建設に勤務する川崎さんが登場です。

まちづくり大学院1期 川崎 泰之

【風景をつくる仕事】

私の原風景は3つあります。幼少の頃住んでいた千里の丘から大阪万博の会場建設を俯瞰したこと。小学生の時、社宅のすぐ隣にあった大宮公園を自転車で徘徊していたこと。中学生の時に転居して、横浜や鎌倉の街の魅力を知ったこと。その結果が今の仕事につながっているのかなと思います。

計画から設計まで幅広くできる部署がある大成建設に就職して20年。公園の設計、集合住宅のランドスケープデザイン、複合開発のマスタープランづくりなど、やりたい仕事ができる環境にあります。

大学で建築を学び、会社でランドスケープや土木をかじり、都市計画は体系的に理解していなかったのが、まちづくり大学院を志望しました。現在は博士後期課程で「鉄道沿線まちづくり」に関する研究を行っています。本郷キャンパスに通うと、何て恵まれた環境なのだろうかと改めて実感します。

会社と家庭の覚束ない自転車操業から始まり、現在は、会社、大学、地元のまちづくり活動、家庭（順不同）と4輪走行で安



▲地元のまちづくり活動「円筒分水スプリングフェスタ」

定はしていますが、スピードが出過ぎて目まいがしそうです。息子が大学に入る前には修了できるように頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

奥尻島の復興から学ぶ

Learn from Okushiri's Restoration

建築学会から足を伸ばし奥尻島を訪問しました。

text_douki

9月1日(日)から3日(月)まで大槌PJメンバーとM2越村が奥尻島現地調査を行いました。奥尻島は1993年の北海道南西沖地震によって津波や火災、土砂崩れなど甚大な被害を受けました。また今年でちょうど被災後20年、完全復興宣言から15年となり、まさにこの時期に復興計画の実現の程度やその後の影響(特に防波堤の観光、漁業への影響)、当時の町役場の動きや意図、震災遺構や慰霊碑をめぐるやり取り、住民の方々への支援方法や震災前後の暮らしの変化などを知ることは、東北のこれからを考える上でも非常に貴重なものとなりました。町の方々はヒアリングを快く受けくださり、また町の総務課長の竹田さんには現地調査に1日付き合ってください、さらには大槌のことも気にかけてくださっていて、この気持ちに応えるためにも奥尻島での知見を生かさなない道はないと感じました。



▲慰霊碑のある高台から青苗岬を望む



▲漁港に整備された人工地盤の前にて

プロジェクト報告



佐原 Sawara-project
プロジェクト

地元のイベントに合わせて遊び場調査を行いました。

text_takanashi

8月17日(土)にM2小笠原、越村、M1高梨で佐原の現地調査へ行ってきました。盆フェスタというイベントで多くの地元の方が外に出歩いていらっしゃるのに合わせてヒアリング調査を行いました。今年の佐原プロジェクトでは、まちなかの衰退といった課題に対して、住民が歩くことが今一番佐原に必要なだと考え取り組んでいます。そして、広い校区のため車送迎によって通学している小学生の放課後に注目し、彼ら彼女らがまちなかで遊ぶことが住民の歩きの第一歩ではないかと考えました。そのための空間の仕掛けづくりを行えるような余剰空間を探すことと、ヒアリングによって佐原の遊び場がどのように変遷しているのかを明らかにすることが今回の調査の目的でした。調査では実際に遊び場が広域化そして均一化していったことが分かり、これからの進展に寄与するものとなりました。



▲川べりに設置された行灯と白鳥



▲遊ぶと楽しそうな路地と空き地

9月・10月の予定

9月18日～19日	靱PJ現地調査
9月20日～29日	タイワークショップ
9月21日～22日	歴史的空間再編コンペ審査
10月4日～6日	靱PJ研究展示
10月11日～13日	佐原PJ秋の大祭研究展示

Information

★ 編集後記

越村 高至

みなさんは(マガジン編集委員以外当てはまらないかもしれませんが)編集後記などの〇〇後記はいつ書きますか?やはり最後でしょうか。途中ででしょうか。最初に書く人も意外といつかも?私は今まで編集後記は途中で書いてきました。編集が後半に差し掛かり、英語のタイトルや使う写真で迷ってきたときなどに気分転換も兼ねて書くことが多かった気がします(編集中心)。しかしなんと今回はちゃんと最後に書いていたので、M2にして初の編集後記になりました!